1. 土木技術の輸出をはかりたい
2. 事故の後で語られること
3. 郵便番号の怪

マンスリートピックス

1. メナム河をはさんで，その両岸に位置するバンコック市とトンブリ市は，3つの橋梁で結ばれているが，増大する交通量をさばききれなくなって，新たに2つの橋梁が架設される。日本政府は，タイ国政府より，この2橋の建設に関する技術援助を要請され，海外技術協力事業団において，一昨年第1橋に対する調査団が結成され，すでに調査・計画および実施設計を完了，近々国際入札に付されると聞く。さる3月9日，さらに第2橋に対する調査団が，同様な目的をもって現地に派遣された。

東南アジア，アフリカあるいは中近東その他の地域に対する，同事業団の建設部門における技術援助活動は，周知のとおりであるが，いずれも，調査・計画あるいは概略設計までの段階であった。実施設計ならびに工事発注に必要な一切の業務を引き受けるのは，これら2橋がはじめてのケースであるという。

これまでにも，これらの地域において，日本のいくつかの有力な建設コンサルタントが，実施設計あるいは施工管理業務を受注しているが，大半は欧米の同業者の手になると聞く。

このような情勢下にあって，今回の同事業団の援助業務の実績が，受け入れ側の日本の技術に対する認識を高め，建設コンサルタントの海外進出に拍車をかけることになると予想される。また，それがさらに建設業の進出に対しても，何らかの形で有利な条件を与えることになれば幸である。 [J]

2. 災害・事故などの報道を見聞きするたびに感ずるのは被害側に何らかの人為的なものたとえば各種土木工事が関係しているような場合，もう少し，それこそほんのわずかの配慮がなされていたら，その災害・事故は未然に防げたのではなかったろうかと思われるものがかなりあることである。

相手が射殺魔のように最初から暴力行為に出るつもりのときは，当方でいくら遠きをおもんばかっても，身にかかる災害を避けることはむずかしい。しかし，土木の分野が関連する災害・事故では，加害素因として働く力は多くの場合，現在その発生を防ぐことは不可能に近い自然力ではあるが，結果としての被害を防ぐことは，完全な計画・設計・施工・管理によって可能である。技術が進んできた今日では，それらがお粗末であったために生ずる災害・事故は，ほとんど考えられないが，それらが実施される過程に現われるごく小さな部分の過失・不注意・不手際などが大事に結び付くことが多い。こんなことから土木技術者には大きく広い視野で事業を考えることはもちろん大切であるが，日常の業務に見られる微細なことにも肌目の細い思慮が望まれる。

このような意見は，しばしば，ことに大事故のあと討議されるのであるが，一向に災害・事故が減らないのはどうしたことであろうかと考えさせられるこのごろである。 [C]

3. 郵便物について，最近特に繁雑さを感じさせるものに郵便番号の記入がある。アメリカでは郵便番号を Zip Code Number と呼んである。Zip は洋服などの Zipper のように“早く”郵便物を配達するという意味をもっている。日本では本当に Zipper の役目を果たしていないようである。郵便番号の一桁目の地域分布には一定の法則がなく，単に東京都を1番として他の地方は適当に割当てたような感じである。不思議なのは大阪府が岐阜県などの5番代の飛地になっていることである。このような飛地をなくして，首都圏，中部圏というような各ブロックごとに番号を割当てて1桁目の番号を見たら，どの地域も，すぐに判明するようにすべきであろう。これは夢かもしれないが，郵便番号と電話の市外局番とを同一にしたり，5万分の1の地形図などにも郵便番号が記入されるようになれば，ある地域を番号で表現できるようになり，電子計算機による地域社会の情勢処理が容易となり，国民生活，国土計画，防災面などに役立つと考えられる。 [S]

第 54 巻第1号から同3号までの本欄の執筆者は下記のとおりです。

J. 本間　伝　　S. 住友栄吉　　C. 沼田　淳